

「いのち」はなくなる

私たちの教団では昭和62年から「ビハーラ活動」というものが始まりました。

「ビハーラ」とはインドの古い言葉で「僧院」、「休息の場所」、「安らぎの場所」という意味がありますが、この活動は、仏教徒が医療や福祉関係者と連携しながら、病の痛みや死の不安を抱えている人々に寄り添い、少しでもその痛みや不安を和らげようとする活動です。

つまり、ホスピスの仏教版と言えるでしょう。

現在、全教区にビハーラの会が設立され、夫々に活動が続けられています。

その会の一つに、「東京ビハーラの会」（東京教区）というのがありますが、そこで副会長をされている田久保園子さんという方が、ご自身の幼い時の体験を語った、大変面白い深いお話がありますのでご紹介します。

田久保さんは太平洋戦争の始まった年、佐賀県の浄土真宗のお寺に生まれられました。

九歳の時、学校の健康診断で肺結核であることが判明します。

医者からは絶対安静を言い渡され、退院後もお寺の離れで一人寝ている日々を過ごすのです。

最初はよくお見舞いに来てくれたクラスメートも月日が経つにつれ次第に遠ざかっていきました。

彼女は境内で元気に遊ぶ子供たちの声を聞きながら涙を流し、自分はこのまま死んでゆくのだと、「死」を意識するようになるのです。

その頃、彼女が子供心に抱いた「死のイメージ」というのは、近所にあった古い井戸の中に真っ逆さまに落ちていくというものでした。それはどこまでいっても真っ暗闇の底なしの井戸に落ちていくというものです。

幼い彼女は恐怖のあまり、真夜中に何度も悲鳴を上げ、「お父さん恐ろしい、どうしたらいいの」と泣きながら訴えたそうです。

彼女の訴えに、寺の住職であるお父さんは、数日後、色とりどりの風船を膨らませて、次のような話をしてくれたのです。

「園子、いのちはね死んでも決してなくなるんだよ。

ここにいろんな色の風船があるね。

青い風船はお父さん。黄色い風船はお母さん。白い風船はおばあちゃん。そして赤い風船は園子、お前だよ。

今は空気が一杯入ってパンパンに膨らんでいるけど、いつかはしぼんでしまうし、いつパンとはじけてしまうかもしれないよね。

でもね、中に入っていた空気はなくなるんじゃないよね。中の空気は外の空気に合流するだけだよ。

いのちも同じなんだよ。

大きな大きないのちの中に、人間の一人一人のいのちも外へ出て行くだけ。体がなくなっても、形は変わっても、中のいのちは外のいのちに合流するだけ。そして、大きないのちがまた新しいいのちを創る働きになるんだよ。だから、死ぬことを恐れなくてもいいんだよ。たとえ風船がなくなっても、中の空気はいつもみんなと一緒にあるんだから」

この話を聞かされた田久保さんは、それまで抱いていた死への恐怖感がすっかり消え失せ、一瞬のうちに目の前が光り輝いたそうです。

住職であるお父さんの、この「いのちのお話」は、まことに素晴らしいものがあります。簡潔で分かり易く、しかも仏教の教えに基づいています。私もこの説明を聞き、「そうだなあ、その通りだなあ」と深い安堵感を覚えました。

親鸞聖人は、「弥陀じねん仏は自然のようを知らせん料なり」と仰っています。

つまり、「阿弥陀さまは、あなたのいのちは、すでに無限なるもの（無量壽・無量光＝アミダ＝自然）の中に包まれている「いのち」なのです。決して肉体に閉じ込められているだけの小さないのちではありません。大きな大きないのち（アミダ）の一部分なのですと、私たちに知らせに来て下さっている」と仰っているのです。

それは、内にあっても、外にあっても、風船の中の空気は、常に大気と共にあるように、大いなる「いのち」と共にいつまでもあり続ける「いのち」なのです。

物質文明と呼ばれる現代、形あるものにしか価値を認めない私たちは、「死んだらおしまい」とよく口にしますが、決してそうではありません。

この「いのち」は、大いなる「いのち」から生まれ、支えられ、そうして、大いなる「いのち」に帰らせてもらうのです。

それが「いのち」の本当のあり方だと思います。

田久保さんは、この時の体験を通して、父から伝えられた「いのち」の受け止め方というものを、子供たちにしっかりと伝えていきたいと思うようになり、子育てを終えてから、仏教の専門学校に入り、僧侶の資格を取り、折から活動が始まった「東京ビハーラの会」に入会されたと語っています。

彼女が愛唱されている金子みすずさんの「蜂と神さま」という詩を最後に紹介します。

蜂と神さま  
蜂は お花の中に  
お花は お庭の中に  
お庭は 土塀の中に  
土塀は 町の中に  
町は 日本の中に  
日本は 世界の中に  
世界は 神さまの中に  
そうしてそうして  
神さまは ちっちゃな蜂の中に

平成21年1月 「光明寺だより60号」より